



平成 29 年 4 月 12 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 サ ダ マ ッ  
 代表者の役職氏名 代表取締役 貞松 隆 弥  
 社 長  
 ( J A S D A Q ・ コード 2 7 3 6 )  
 取 締 役  
 問 い 合 わ せ 先 管 理 本 部 長 磯 野 絃 一  
 電 話 番 号 0 3 - 5 7 6 8 - 9 9 5 7

## 平成 29 年 8 月 期 第 2 四 半 期 連 結 累 計 期 間 の 業 績 予 想 と 実 績 と の 差 異 に 関 す る お 知 ら せ

平成 28 年 10 月 14 日に公表した平成 29 年 8 月 期 第 2 四 半 期 (平成 28 年 9 月 1 日 ~ 平成 29 年 2 月 28 日) の業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 業績予想の修正等について

(1)平成 29 年 8 月 期 第 2 四 半 期 (累計) 連 結 業 績 予 想 と 実 績 と の 差 異 (平成 28 年 9 月 1 日 ~ 平成 29 年 2 月 28 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株 当 り 四 半 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,900	90	65	15	1.33
実績値(B)	4,790	102	116	88	7.87
増減額 (B-A)	△110	11	51	73	
増減率(%)	△2.2	13.3	78.5	486.7	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 8 月 期 第 2 四 半 期)	4,782	68	47	2	0.25

#### 2. 差異及び修正の理由

##### (1) 第 2 四 半 期 累 計 期 間

当第 2 四半期累計期間の売上高につきましては、不採算店舗の退店と併せて、眼鏡事業の譲渡を実行したことにより、当第 2 四半期累計期間末におけるグループ店舗数が前年同期末に比べ 5 店舗 (内、海外 1 店舗) 減少したことに加え、EC 事業の計画未達もあり、僅かながら予想を下回りました。

利益面に関しては、売上総利益は当初の想定値を下回ったものの、3 月の銀座路面店出店を基軸としたプロモーション活動に傾注すべく、上期の販売費を抑制したことから、当初計画に対して販売費及び一般管理費が売上総利益の減少分以上に減少したため、営業利益は予想を上回りました。

また、円安の影響から為替差益が発生したことに加え、眼鏡事業譲渡に伴う特別利益を計上したため、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は予想を大きく上回る結果となりました。

## (2) 通期

第3四半期以降につきましては、ブランドエクイティの向上に向けて、銀座路面店出店による波及効果を追求するとともに、引き続き“Wish upon a star”を基軸とした販売強化を進めてまいります。また、EC事業を中心とした新規チャネルの進捗が乏しいなか、早期の収益化に向けて人員強化を含めた対応策を講じてまいります。さらに、3月には織研新聞社「第35回百貨店バイヤーズ賞レディス」において当社旗艦ブランドの「フェスタリア ビジュソフィア」がグッドパートナー賞を受賞するなど、ブランド力強化施策の効果獲得が着実に進んでいるため、引き続きブランド認知度の訴求に繋がる積極的な投資を実行してまいります。

このような方針を踏まえ、通期の売上高につきましては、新規事業の収益化に不透明な状況がみられるものの、ブランド力向上に伴う有力百貨店の増床実現に加え、“Wish upon a star”の販売強化により既存店の売上高が堅調に推移していることを鑑み、通期の連結業績予想からの変更はありません。

利益面につきましては、当第2四半期累計期間は当初予想を上回りましたが、上記のとおり銀座路面店出店にかかる設備投資や国内外への波及効果を目指した積極的なプロモーション費用の計上に加え、基幹システムの刷新による大型のシステム投資を見込んでいるため、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益につきましても、通期の連結業績予想からの変更はありません。

なお、今後の経営環境等の変化により、業績予想について修正が必要と判断した場合には、速やかに開示いたします。

以上